



発行所 郵便番号 260-8628  
千葉市中央区中央4丁目14番10  
千葉日報社  
電話 043(222)9211

©2023

10月26日(木)

# 衣類を命救うワクチンに

## 子ども助け支援の輪広げる

古着deワクチン(日本リユースシステム運営)は、ポリオワクチンの寄付先である「ラオス人民共和国」へ支援活動に参加し、利用者へ活動報告を行った。コロナの影響を受け約3年ぶりの実施となった。

古着deワクチンでは、不要になった衣類をカンボジアや開発途上国を中心に輸出し、現地で販売して再利用。衣類が1枚売れるごとに1ポリオワクチンが寄付されるサステナブルな、お片づけ商品である。

カンボジアの直営センターでは、ポリオ障害の後遺症があるス



ポリオワクチンの予防接種を受ける子どもも。3月28日、ラオス(日本リユースシステム運営提供)

タッフや、貧困地区で育った若者が働いている。センターでは洋服を販売する毎に1ポリオワクチンを寄付する仕組みがあり、スタッフは未来の子ども達が自分たちと同じ苦しみを味わうことがないようにと願いを込めて働く。センターのコンセプトは「支援されていた側が支援する側に」。未来の子どもたちと同じ苦しみを背負わせないための活動だ。

同社の辻本真子さんは、「今後は衣類の他に、キッチンや着物のシリーズを展開し、循環型社会を創っていきたい」と語った。

古着deワクチンは一過性のものではなく、サステナブルな衣類の再利用、ワクチン寄付で子どもを救う、国内外での雇用創出などのハッピーなサイクル、すなわち循環型の世界の創造につながっている。

衣類を送るといふ行動一つで助かる命があり、古着deワクチンを通して子ども達の新しい人生の一端を担うことができると言えるだろう。

(宝崎紫苑)